

## 64 宗田文庫本『切紙東井御釈談』につい

て

小曾戸 洋

故宗田一先生の旧蔵書中に一冊の江戸初期の写本があり、生前借出して複写してもらったことがある。他の旧蔵書とともにいま国際日本文化研究センター宗田文庫に入っており、請求番号はSC/851/Maである。この書は曲直瀬道三・玄朔の医学を伝える貴重な資料であるので、以下に報告する。

本書は表紙が欠損しているので、本来あったはずの外題は不明である。本文は不分巻一冊本で、首尾完存。口語を混える和文。首第一行には「一五十七ヶ条 東井御釈談」とある。内容を詳細に検討したところ、本書は曲直瀬道三（二溪・一五〇七〜九五）の『切紙』を、その養嗣子の玄朔（東井・一五四九〜一六三二）が講義（釈談）し、それを門人が筆録、整理して一書冊となしたもので

あることがわかった。演者は『宗田文庫目録・書籍篇』（国際日本文化研究センター・二〇〇一年三月刊）の編纂に参加した際、この無題の書に『切紙東井御釈談』という書題を与えて同目録に登録した（ちなみに玄朔には『医方大成論釈談』という著もある）。

『切紙』は、もと道三が自らの医学の秘訣を記して弟子に伝授した紙片を、のちに整理して一書としたもので、通行本（江戸前期刊。数版種がある）は全三巻、次の四一篇よりなる（括弧に注記のないものはすべて元亀二年の感）。

- ①五十七ヶ条、②診候薬註一紙之約術（元亀四）、③脈対分別之捷徑（天文十二）、④弁脈体名状、⑤剂薬調進法術、⑥宜調類、⑦当他の両例、⑧陰陽両経、⑨三治授、⑩四証四治剂多寡、⑪五矩、⑫七ヶ条弁剂、⑬二七局、⑭註銘無尽蔵之一紙、⑮製方鑑、⑯学習記、⑰経常養生之仙術、⑱二十四剂、⑲常経流注升降迎随之図、⑳求嗣合卦法、㉑察胎、㉒建中、㉓察狐魅之状、㉔老師口訣、㉕戴眼大腸経之絶証、㉖摩訶寛、㉗補瀉之配剂、㉘宗夷胃氣（天文七）、㉙男婦胃氣弁診、㉚深察胃絶、㉛患脈之再察、㉜察男女之命脈生死診訣、㉝脈神、㉞外感内傷生死弁解、

③⑤療規通準、③⑥治法例繩(永禄九)、③⑦救矩明鑑(永禄十)、  
 ③⑧察生氣有無(元亀四)、③⑨授越年学侶(天正九)、④⑩老人  
 痰証虚煩之二論(天正九)、④⑪脈訣刊誤撮要(天正九)。

一方、本書の講義に用いられた『切紙』は刊本となる  
 以前の、道三の原本か、もしくはそれに近いものに相違  
 ない。本書は前述の刊本の①五十七ヶ条から②補瀉配劑  
 までに該当する部分が詳細に解説されている。ただし、  
 本書は刊本の③④を分けて第三篇としてあるので、以  
 下篇次が一つずつ繰り上って、補瀉之劑は第二十六篇と  
 なっている。さらに末尾には天正九年(一五八一)八月十  
 二日、一溪(道三)御釈談にかかる「脈訣刊誤撮要」計一  
 ○葉が付されている。これは刊本『切紙』の最終篇に相  
 当する。

曲直瀬道三は近世日本医学の開祖であり、玄朔はその  
 第一の後継者として曲直瀬医学を世にあまねく普及させ  
 た功労者である。『切紙』は江戸前期、医界に広く流布し  
 た。その講義は曲直瀬門下でしばしば行われていたもの  
 と思われる。

玄朔が『切紙』を注釈・講義したこの宗田文庫本『切

紙東井御釈談』は他に同類本の存在を聞かず、おそらく  
 は天壤間無二の逸品と考えられる。『切紙』の伝承経緯、  
 さらには道三・玄朔の医学思想をうかがううえで看過で  
 きない資料といえる。

(北里研究所東洋医学総合研究所・医史学研究部)